

ヨット教室については、このメモを基本とし、人数や状況に応じて柔軟に運営して下さい。

### 1. ヨット教室の趣旨

毎年6月～7月に実施されるハーバー主催の「市民ヨット教室」は、OSSCがその実技部分を受託しています。この行事は、ハーバーからその受託費をいただいているだけでなく、これをきっかけとしてクラブへ新規加入する方が多いなど、クラブにとって非常に重要な行事です。クラブメンバーの方々の協力を是非お願いします。

### 2. 服装・道具

- 1) 生徒が持参するものとして、ハーバーが規定しているもの  
筆記用具、着替え（一式、下着を含む）、タオル、履き替えの靴、帽子、昼食、飲み物
- 2) ハーバーから貸すもの  
ライフジャケット
- 3) OSSCから貸すもの  
軍手をOSSCから貸している。

### 3. 順序

#### 1) 募集

ハーバーが募集する。6月から7月にかけて、1週間おきに3回、全部で6回募集される。  
10時から16時まで、福岡市内に住む16歳以上、先着12人、3000円  
来所して申し込むことになっているが、実際には電話で予約し、当日に参加費3000円を払う者もいる。

#### 2) 人数の確認

開催日の数日前に、ハーバー事務所の吉岡氏へ連絡して、人数を確認しておく。

#### 3) ハーバーの時間設定と概略の予定

- (1) 生徒は9時45分までにハーバー2階会議室に集合
- (2) 10時から11時頃まで、教室で講義。これにはOSSCは関与しない。
- (3) 11時頃から12時頃まで、バースで陸上シミュレーション。  
この時点から、OSSCが担当する。
- (4) 海上で練習
- (5) 着艇後、教室で反省会。この時、OSSCへの勧誘をする。
- (6) 16時に解散する。

### 4. 当日の進め方の詳細

- (1) クラブ員は9時に集合して、ハーバーから生徒一覧表を入手する。
- (2) OSSC参加者の顔ぶれと生徒の人数を勘案してインストラクターを決める。
- (3) 生徒艇1艇につき、1艇のサポート艇を対応させるようにする。このサポート艇の乗員は、艀装、陸上シミュレーション、出艇、着艇、解装に従事する。
- (4) 生徒人数により、乗船人数を決める。

- ・生徒が少ないときは、1艇に1人の生徒を乗せる。つまり、通常と同じく2名で乗船する。
- ・生徒が多いときは、1艇に2人の生徒を乗せる。つまり、3名で乗船する。
- (5) 10時頃までに、生徒艇とサポート艇の両方の艀装を済ませておく。  
生徒はこの時点ではヤードに出てこないで、艀装を行うことはない。
- (6) 11時頃～12時前まで、陸上シミュレーションを実施する。
- (7) 12時頃に昼食を取ってもらう。
- (8) 12時半頃から、海上へ出る。
- (9) 14時頃まで海上で練習する。
- (10) 着艇後は、生徒は教室へ返す。解装はさせなくてよい。
- (11) 世話係は、教室へ行き、OSSC勧誘ポスターと申込書を渡し、クラブの活動を説明して勧誘する。できれば、その場で申込書に記入してもらう。
- (12) 教室から2階ホールのOSSCたまり場に誘って、メンバーと顔合わせをして、クラブの雰囲気を知ってもらう。
- (13) 16時には、解散するように配慮する。

## 5. 陸上シミュレーションのやり方

- 1) 生徒にはクルーの役割をやってもらう。余裕があれば、スキッパー役もやってもらうことも。
- 2) クルーの3つの役割を知ってもらい、練習してもらう。
  - (1) ジブシートの操作およびタッキングの練習  
艇をポート側←→スターボード側に動かして、シートの引き方、ブームのくぐり方を練習させる。「タック用意」→「タックOK」のかけ声。
  - (2) 体重移動・ハイクアウトの練習
  - (3) 見張り 特に練習は無し。
- 3) 出艇時の役割  
センターボードの降ろし方。特にセンターボードのフックの外し方がとっさにできない場合が多いので、しっかり操作を練習させる。
- 4) 着艇時の役割  
メインハリヤードを引き、メインセールを降ろす練習。
- 5) 出艇前に、記念写真を撮影する。

## 6. 出艇・着艇のサポート

- 1) 出艇・着艇は難しい場面なので、サポート艇が補佐する。生徒艇1艇につきサポート艇は1艇とする。着艇がもっとも難しいので、サポート艇のみが先に着艇を済ませておき、着艇する生徒艇をサポート艇のメンバーがスロープで待ち構えて受け止めるようにする。
- 2) 上記のために、サポート艇は、15分ほど早めに着艇するようにする。このためには、生徒艇の帰港のための旗とは別に、サポート艇を先に帰港させるための特別の旗を掲揚するとよい。

## 7. 海上での練習方法

安定した帆走とタッキングのみでの方向転換のために、ウィンドアビームを基本とする。

- 1) 2個のマークを風向に直角に設置する。
- 2) 2個のマーク間をウィンドアビームで、8の字型に帆走させ、タッキングのみの操作で帆走さ

せるようにする。

- 3) 生徒が慣れてくれば、ジャイビングを練習したり、スキッパーをやらせてもよい。ただし、強風の時は避ける方がよい。
- 4) 14時過ぎには、ハーバーに戻るようにする。
- 5) サポート艇は、海上では特に生徒艇のサポートをする必要はない。